

よじつぞ白銀の北海道へ！

本部町親善交流団が来町

「友好の町」沖縄県本部町との間で平成3年から毎年行われている親善交流事業として、本部町から19名の交流団の皆さん（小学5年生15名、随行者4名）が、1月31日から2月4日までの日程で本町を訪れ、町内の児童生徒やホームステイ受入家族などと交流を深め、冬の北海道を満喫しました。

本町に到着した交流団は、役場を表敬訪問し、沖縄から持参した八重桜の花束を池部町長に贈呈しました。

この夜、総合福祉センターで行われた歓迎会では、奥田助役が「心より歓迎します。冬の北海道を満喫し



町長に桜の花束をプレゼント

また、下金山小中学校児童生徒の「YOSAKOIソーラン踊り」と沖縄と流派を同じくする本町の「正伝空手道南風塾」の子ども達による空手を披露しました。

本部町の子ども達は、「たくさんの人と触れ合いですばらしい体験をしたいで



三線(さんしん)を奏で、歌と踊りを披露

てください。」と挨拶。交流団の荻堂(おぎどう)団長からは、「温かい歓迎に感激しています。沖縄では味わえない真冬の南富良野町を体験したい。」と述べました。



スピードにビックリ！犬ぞり体験

す。」などと自己紹介をした後、600年の歴史をもつ空手「首里手」や歌と踊りを披露し、ホームステイ受入家族と食事をしながら楽しく交流を深めていました。

2日目は、幾寅小学校の児童と全校交流会を行い、「琉球舞踊」などを披露した後、校庭で雪遊びをしました。また、午後からはどころ野外学校で犬ぞり体験し、空知川スポーツリンクスで落合小学校と北落合小学校の児童と一緒にカーリングに挑戦し、初めての氷上スポーツを楽しみました。

3日目、東鹿越で凍った湖面に驚きながらワカサギ



ツルツルのリンクに悪戦苦闘したカーリング

釣りを体験した後、スキー場で金山小学校と金山中学校の児童生徒からスキーの指導を受け、時間を忘れて楽しく過ごしていました。

この日の夜は、それぞれのホームステイ先に分かれて、北海道の家庭料理と冬の暮らしを体験しました。

4日目の朝、ホームステイ家族に見送られて本町を離れ札幌に移動。ラーメン横丁で昼食をとった後、雪まつり会場やテレビ塔、二条市場などを見学しました。

5日目、交流団の皆さんは、厳しい寒さと美しい白銀の北海道の思い出を胸に、2,600キロ離れた南国沖縄へと帰っていきま



札幌時計台の前で記念撮影



ワカサギを釣り上げて大喜び



楽しみにしていたスキー